

令和元年6月22日現在

機関番号：47701

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K16893

研究課題名(和文)近代期イスタンブル火災保険地図でみる社交空間の立地と形態変容に関する研究

研究課題名(英文) A study on the location of social space and transformation of architectural form by the fire insurance map of Istanbul in the modern period

研究代表者

穴戸 克実 (Shishido, Katsumi)

鹿児島県立短期大学・その他部局等【生活科学科(生活科学専攻)】・准教授

研究者番号：30535133

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、イスタンブルとカイロのカフェ(伝統的喫茶店)と立地する公共空間を対象とし、歴史的都市における社交空間・公共空間の実態を明らかにすることを目的とした。イスタンブルではカフェが伝統的機能を継承しながら業態や建築形態が多様化し、市街地ごとの特性を示す様相が明らかとなった。カイロではカフェが立地する伝統的広場空間が継承され、新たに発生した広場的空間においてもカフェとの深い関係性が確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究における「カフェ」が、公共空間(広場や街路等)と一体的に位置けることで、建築史・都市史的なアプローチが有効であることが示唆された。さらに、中東の歴史的都市が直面する都市問題として、住民のための公共空間の変質があげられる。カフェと公共空間の深い関係性を明らかにすることで、風土や文化を踏まえた公共空間再生の可能性を示した。

研究成果の概要(英文)：This research focuses on cafes and public spaces in Istanbul and Cairo. The purpose of this study is to understand the actual conditions of social space and public space in historical cities.

Istanbul's cafe has a traditional function. The business style and architecture of cafes have different characteristics in each commercial area. In Cairo, cafes are located in a traditional open space. The newly created open space and the cafe are related.

研究分野：建築学

キーワード：イスタンブル カイロ 社交空間 カフェ

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

近現代トルコの社交空間(伝統的喫茶店・カフェ)に関し、社会・文化学的な研究対象として着目される一方、建築や都市的アプローチによる建築類型や都市的分布、公共空間との関係性、形態変容について言及された研究は管見の限り見当たらない。トルコ(中東地域)のカフェは、多様な社会性を帯び、地域社会のコミュニティ施設としての要素をも担う。都市の近代化とともに公共空間のありかたが変容するなかで、依然としてカフェは重要な「都市施設」といえる。

2008年トルコで室内禁煙法が施行されて以降に起こったカフェ建築の変容について調査を行った際に、カフェと都市・公共空間との関係性を再認識した(2011 宍戸)。中東における伝統的な諸都市が直面する欧米的近代化や観光化、地域住民のための公共空間喪失等の都市問題に対し、風土や文化を踏まえた取り組みの必要性を強く感じている。

### 2. 研究の目的

近現代イスタンブル(トルコ)及びカイロ(エジプト)の多様な都市文化を担う「社交空間」に着目し、その分布と形態の変容過程を、地図史料と現地調査に基づき明らかにすることが本研究の全体構想である。社交空間とは、主に伝統的喫茶店(カフェ)を指し、街路や広場などの公共空間と深い関係性が示唆される。建築史分野では、為政者によるモニュメンタルな宗教・商業施設が主な研究対象とされる一方、社会背景や庶民の思考により成立する多様かつ流動的な社交空間が、空間論的に扱われることはなかった。イスタンブルとカイロにおけるカフェの立地傾向と建築形態を抽出・分類するとともに、地図史料を用いて都市・公共空間の変容の過程を示し、その上で、カフェと公共空間の関係性について明らかにすることを目的とする。

本研究の当初計画ではイスタンブルのみを対象としていたが、研究期間中にクーデター未遂やテロ事件が相次いだことから限定的な調査・研究に留め、対象都市にカイロを加える変更を行った。この変更により、カフェ単独ではなく公共空間との深い関係性の上に成立しているという視点が加わった。

### 3. 研究の方法

#### (1) イスタンブル

本研究ではイスタンブル中心地区(ガラタ、カラキョイ、エミノニュ、ファーティフ、バラトの各商業地区)を対象とした。これら地区には、非ムスリム居住区や歓楽街の他、伝統的商業地域など多様な要素が含まれる。近代期地図史料は複数確認されているが、本研究では19世紀末から20世紀初頭のイスタンブルを描いた2種類の火災保険地図(Jacques Pervitich 作成地図、Charles Edouard Goad 作成地図)を主要史料として用いる。双方に共通しているのは、火災保険地図という性質上、建築物に関する情報が細かく記載されている点である。地図には建物名称、用途、建築構造、開口部、階数、屋根材、屋根形状まで記載されており、学術的価値が非常に高い。これら地図からカフェを抽出したところ、Pervitich 地図からは196件、Goad 地図からは452件となった。この情報をもとに現地調査を実施し、現在の状況及び周囲の公共空間との関係性について確認する。

#### (2) カイロ

カイロではまず、旧市街イスラーム地区全域を悉皆調査し、カフェ(伝統的喫茶店)の分布特性について考察する。次に、旧市街イスラーム地区にあるダルブアフマル地区を事例地区とし、年代別の地図史料を用いて街路・公共空間の形態及びその変容について明らかにする。地図史料は、1 ナポレオン地図(Description de l'Égypte 1809-22年掲載地図)、2 1930年代地図(1935-39年)、3 現代地図(Nicholas Warnerの地図1997-2000年)を用い、年代別に街路・公共空間の形態変容や構成施設の変化を把握した上で、カフェの立地と形態の分析を行う。カイロを対象とした調査・研究においては、2016-17年度トヨタ財団研究助成(カイロ歴史地区の遺産保全と都市史再考:建築リスト化を通じた住民の遺産意識の覚醒と建築史から紐解くカイロ史/共同参加)、2018年度大林財団研究助成(歴史的カイロにおいて伝統的建造物と伝統的居住様式を軸として持続的コミュニティを考える/共同参加)のプロジェクトと併行して実施した。

### 4. 研究成果

#### (1) イスタンブル

##### 火災保険地図でみたカフェの分布

火災保険地図からは、カフェが集中的に立地する地区の特性が明らかになっている。Goad 地図を用いた比較では、旧市街(エミノニュ、ウンカパヌ)が22件であるのに対し、新市街(ペラ、ガラタ)は356件と圧倒的な差がみられる(カドゥキョイ74件)。Pervitich 地図では、旧市街(クムカプ25件、エミノニュ36件、ファーティフ41件、アクサライ31件)が133件であるのに対し、新市街(タクシム9件、ベイオール11件)は20件であった(ベシクタシュ22件、オルタキョイ0件、シシリ18件、カドゥキョイ10件、ウスキュダル47件)。

##### 火災保険地図でみた歓楽街の分布

カフェの分布傾向を分析した結果、特定エリアに集中立地していることが明らかになった。

集中する周辺環境には「海岸や港に近い繁華街」「街路が複数交差し特異な空間構成」「非ムスリム居住区や関連宗教施設」などの共通点が確認された。これら地区には酒場等も多く分布する傾向も認められ、多くが歓楽街と重複する。旧市街の伝統的商業地区（エミノニュ、ファートイヒ）におけるカフェと、新市街のカフェの性質は異なるものと推察され、Goad 地図と Pervitich 地図で記載されたカフェをより注意深く分類することが今後の課題である。

#### 現代的分布：カフェ・歓楽街が密集する場所

火災保険地図に記載されたカフェについての現状を確認する調査を実施した。

カフェのまま現存しているものは少数ではあるが確認された。また、当時カフェだった建物が用途を変えて現存している例も少なからず確認された。これらをもとに建築史的分析が可能か検証を続けたい。イスタンブルの場合、街路構成はそのまま残ってはいるものの、建物が建て替わるなど地区用途の変容などが大きく影響したと考えられる。一方、火災保険地図で歓楽街と定義した場所の多くは、現代においても歓楽街として賑わいを見せている。当時カフェだったところの多くは酒場になっており、歓楽街としての性質が高まっていた。こうした地区が歓楽街化する過程について、公共空間（広場・街路）と一体的なものとして分析する作業を進めている。現地調査を進めた結果、火災保険地図でカフェが集中していた地区ではないところに、現代のカフェが集中していることが明らかになった。当時とは別の地区がカフェ密集地区になったということである。現地調査を進めた結果、カドゥナルパザル、キュチュックパザル、アクサライ、バラト、グランドバザールなどへの集中立地が判明している。これら进行分析により「特定地方からの移住・集住」「特定の商業地区」などの共通性が認められ、密集する背景とそのメカニズムを明らかにしたい。

#### 空間変容過程の解明

本研究では研究計画の変更があり、カフェとその周辺の公共空間を対象とする研究にシフトした。よって、後述するカイロで行なった分析手法を用いた作業を今後イスタンブルにも取り入れる予定である。イスタンブルの場合、カフェ集中地区（広場的空間）は時代とともに変質し、歓楽街化したことが明らかとなった。また、現代イスタンブルでカフェが集中する地区の共通点を示すことができた。周囲の公共空間を含めた詳細な分析は今後の研究課題となるが、公共空間との関係性について明らかにしたい。

#### サフランボルの事例調査

火災保険地図には含まれないが、より伝統的な空間形態を残すと推察される地方の小都市におけるカフェと広場空間の調査を実施した。サフランボルは黒海沿岸・内陸の山間部に位置する小都市で、オスマン朝期は交易中継都市として栄えた。当時の都市構造や街並みがそのまま残る世界遺産都市である。サフランボル旧市街中心部には工房や店舗が集積しており、各職人集団（ギルド）の伝統的カフェが残っている。

これらのカフェを調査した結果、専門別に別れた各工房街に分布し、広場（共用作業空間）中心部の共用水場と併設するかたちで立地している。カフェが共用広場や共用設備と一体構成となっており、伝統的なカフェの形態と機能が現在も継承されている貴重な事例が散見される。また、サフランボル旧市街のマハッレ（ハーラ）を調査した際、地区モスクに併設するカフェとその周辺広場が、伝統的な形態を保ちながら交流拠点として再生された事例が確認された。

#### （２）カイロ

カイロ旧市街にはカフェ（伝統的喫茶店）が多数立地し街路と形態的に結びつきながら公共空間を形成していると推察する。公共空間を構成する「都市施設」としてカフェを位置づけ、その分布や建築類型、カフェが立地する公共空間の変容を分析対象とする。公共空間の形態とその変遷、周辺施設の変容を分析することにより公共空間の空間秩序に関する新たな知見を探る。カイロでは16世紀頃からカフェが普及し、現在でもカイロの街なかに数多く存在し人々の暮らしに密着した施設である。伝統的地区（旧市街・イスラーム地区）を中心に立地し、主に男性が利用する。

#### カイロのカフェ分布

カイロ（旧市街・イスラーム地区：約8km<sup>2</sup>）を悉皆的に調査した結果、361件のカフェ（伝統的喫茶店）を確認した。イスタンブルとの数的比較分析は今後の課題ではあるが、中東の都市でも極めて密度・数ともに高水準だと推察され、都市空間・文化・生活と深く関係のある施設であることがうかがえる。分布傾向として、「面的に広がるスーク（商業地区）」「線状に延びるスーク」に集中的に立地するほか、街路の階層性（ヒエラルキー）により異なることが示唆された。

#### ダルブ・アフマル（地区）のカフェ分布と公共空間

研究対象とした本地区は、カイロ旧市街に位置する伝統的地区で、歴史的街路形態が継承され、商業地区、居住地区が混在している。本地区内には79件のカフェが確認された。本地区の研究では、まず、ナポレオン地図を使用して街路の階層性を以下のように三分類した。

主要街路 縮尺の異なるナポレオン地図（広域図）に描かれた街路を主要街路とした。

通り抜け街路 主要街路どうしを接続する街路を指す。

袋小路 通り抜け街路から分岐した行き止まり街路とした。

カフェの立地と街路でみると、主要街路 46 件、通り抜け街路 27 件、袋小路その他 6 件で、街路の階層性とカフェの立地に関係性が認められた。

建築形態について開放性の視点から分類した結果、店舗壁面が大きく開放（開口）されているものが 63%、屋外客席を有する店舗が 78%と、街路空間と一体化し屋外利用を前提とした建築形態であることが明らかとなった。

年代別地図を用い、広場的空間の抽出とその変容を分析した。その結果、伝統的広場空間の他、街路改変に伴い発生した広場空間の他、区画整理で発生した広場空間の存在を確認した。また、いずれの事例においてもカフェと広場空間の関係性が深いことが示唆された。

#### まとめ

##### カフェの立地

公共性の高い主要街路沿いに多数立地するほか、通り抜け街路に分散的に立地する。

##### カフェの建築類型

建築形態的に開放的な店舗空間で屋外利用を前提としている。街路上に客席を配置するが、可変・移動であるため街路を固定的に占有しない。

##### 事例分析

「伝統的要素を受け継ぎ現代的に利用する公共空間」「伝統的街路の改変による公共空間創出」

「区画整理の新街路網の空地に創出された公共空間」などの事例が確認された。

##### 公共空間とカフェの関係

建物の隙間、街路の歪み、管理の行き届かない空地や緑地をカフェが有効利用することで公共空間を維持している。可変可能で街路空間と一体化するカフェは公共空間の創出に深く関係している。

#### 5. 主な発表論文等

〔学会発表〕(計 1 件)

深見奈緒子, 吉村武典, 宍戸克実, 都市の街路と施設にみる公共空間の変容 (アホワと公共空間), 企画セッション 1 (中東の都市と農村における公共空間の変容) 日本中東学会第 35 回大会, 2019

〔その他〕

##### 講演

宍戸克実, 「カイロのカフェ文化」, 日本学術振興会カイロ研究連絡センター定例懇話会 (カイロ), 2016

宍戸克実, 「Cafés in Historic Cairo」, トヨタ財団助成プロジェクトまちづくり住民集会, ヤカーン邸 (カイロ), 2017